

フィリピンの看護職の方々に「妊婦の冷え症」に関するインタビューを実施しました

渡航期間:2023 年 9 月 5 日~9 日

4 か所のヘルスセンターを訪問し、妊婦健診を実施されている助産師または看護師の方々にインタビューを行いました。妊婦の冷え症に関する知識や、妊婦健診で妊婦の身体に触れて冷えを確認しているかどうか、どのような内容の保健指導を実施しているか等を伺いました。



実際に妊婦健診に参加させていただきました。

子宮底長を測定したり、胎位・胎向を確認したりするためにお腹には触れるますが、冷えを確認することはしていませんでした。ヘルスセンターの中はかなり暑く、妊婦の方々も汗をかいている様子で、お腹には汗による冷えが少しありました。



フィリピンは年間を通して気温・湿度が高いこともあり、妊婦の冷え症については関心が低い状況でした。しかし、保健指導として、バランスの良い食事や運動についてはお話されているとのことで、これは冷え症の予防・改善にも繋がるセルフケアでした。



私立総合病院と公立病院にも訪問しました。病院では、ヘルスセンターで健診ができないハイリスク(高齢、合併症等)の妊婦を受け入れているので、基本的に医師が妊婦健診を実施しているとのことでした。そのため、看護職は妊婦健診には携わらない状況でした。



病院で妊婦のケアに携わっている看護師の方にも、妊婦の冷え症に関するインタビューをしました。ヘルスセンターと同様、病院でも妊婦の冷え症に対する関心は低い状況でした。しかし、妊婦の冷え症が異常分娩の発生率を高めることとお話すると、とても興味深く聞いてくださり、冷え症の予防ケアについて、もっと知りたいと言ってくださいました。より良いケアを妊婦に提供しようという意欲がとても高い方々だと感じました。



フィリピンでのフィールドワークは、看護職が持つ妊婦の冷え症に対する認識、日本とは異なる助産師の役割、妊婦健診の実施状況や保健指導の現状等について学ぶことができた貴重な機会でした。

～2023 年度助産学分野研究フィールドワーク活動レポート～

フィリピンで分娩時の会陰損傷について インタビューをしてきました！

渡航期間：2023 年 9 月 5 日～2023 年 9 月 9 日

📍公立大学附属病院、公立産科病院、私立総合病院、地域の保健センターなどを
訪問させていただきました📍

分娩時の体位は分娩台での仰臥位が最も一般的で、フィリピンでは自宅分娩が法律で禁止されており医療体制が整った施設での分娩が定められているように、母子の死亡率を下げるための工夫がされています。



…ある病院では、ハイリスクの母子が多いことから医師のみが妊婦健診を実施するため、看護職が妊婦さんに接する機会がなく、産前の妊婦さんへの指導は困難な状況でした。分娩時の会陰裂傷予防のための支援では、多くの看護職が会陰保護の実施や強い努責をかけすぎないように声掛けを行っていました。

会陰裂傷の発生や会陰切開を実施した褥婦さんは縫合後、患部に赤いライトを照射されるというケアは日本で耳にすることがなかったので驚きました。衛生状態の問題から、感染症の観点で会陰裂傷予防の重要性が語られました。会陰裂傷の発生後は母親に会陰部を清潔にするように、洗浄や排泄後の拭き方等の指導をされていました。



フィリピンでは初産婦さんにはほとんどルーティーンとして会陰切開が実施される施設がある一方、フリースタイル分娩をしている施設もあったり、助産師だけでなく看護師も分娩介助を実施すること、9.10.11.12月は「bir(th)month」と呼ばれ、出生ラッシュの月であるということなど、非常に興味深いことを聞くことができ多くの学びを得ました。